北海道林業・木材産業　新型コロナウイルス対策に関する連絡会議
（第8回）

日時：令和3年11月25日（木）15:00～16:30
場所：かでる2・7　510号会議室

【次第】

1　現在の需給状況等について

2　今後の対応方向について

第８回 北海道林業・木材産業　新型コロナウイルス対策に関する連絡会議　出席者名簿

所属	職氏名		備考
北海道森林組合連合会	代表理事会長 （代理出席 木材流通課長	有末道弘　様 岡田典子　様）	オンライン
北海道素材生産業協同組合連合会	代表理事会長	髙篠和憲　様	オンライン
北海道木材産業協同組合連合会	副会長	内田敏博　様	オンライン
北海道カラマツ製材業協議会	会長	松永秀司　様	オンライン
トドマツ人工林材協議会	会長 （代理出席	吉井忠　様 吉田良弘　様）	オンライン
物林（株）営業本部北海道グループ	グループ長	中根幹成　様	オンライン
王子木材緑化（株）北海道支店	製紙原料・バイオマス燃料部長	松浦剛史　様	オンライン
北海道森林管理局　総務企画部	企画課長	佐藤秀憲　様	オンライン
〃　森林整備部	資源活用第一課長	赤羽根浩　様	オンライン
〃	資源活用第二課長	根田祥一　様	オンライン
北海道水産林務部	林務局長	岡嶋秀典	
〃　林業木材課	課長	加納剛	
〃　〃	木材産業担当課長	宮谷勇	
〃　〃	林業振興担当課長	山崎康裕	
〃　森林整備課	課長	本橋伸夫	
〃　道有林課	課長	岩崎誠	
〃　総務課	課長補佐（林務企画）	立原泰直	
〃　林業木材課	課長補佐（林業金融）	飯島昭仁	

（オブザーバー）

北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場	場長 専門研究主幹 研究主幹	岩田聡　様 斎藤直人　様 石川佳生　様	オンライン

（事務局）

北海道水産林務部林業木材課	課長補佐（林業木材）	野村具弘	
〃	主査（林業木材）	宮田久	

「北海道林業・木材産業　新型コロナウイルス対策に関する連絡会議（第8回）」
開催要領

第1　日時

令和3年11月25日（木）　15:00～16:30

第２　開催方法

オンラインにて開催

第３　目的

第7回連絡会議以降の情勢の変化や、感染拡大の長期化に伴う影響等について意見交換し、今後の対応方向について検討を行うために開催する。

第４　構成員

構成員は別紙のとおりとする。

第５　運営

1. 林業木材課長が主宰する。
2. 林業木材課長が認めた場合は、構成員以外の者の出席を求めることができる。
3. その他、運営に関し必要な事項は林業木材課長が定める。

第６　事務局

連絡会議の事務局は、林業木材課に置く。

第７　雑則

この要領に定めるもののほか、必要な事項は林業木材課長が別に定める。

北海道林業・木材産業　新型コロナウイルス対策に関する連絡会議（第8回）
構成員

北海道森林組合連合会

北海道素材生産業協同組合連合会

北海道森づくり推進協議会

北海道木材産業協同組合連合会

北海道カラマツ製材業協議会

トドマツ人工林材協議会

物林株式会社 営業本部北海道グループ

住友林業フォレストサービス株式会社 北海道営業所

王子木材緑化株式会社 北海道支店

日本製紙木材株式会社 北海道支店

北海道森林管理局

北海道水産林務部（総務課／林業木材課／森林整備課／道有林課）

資料1

現在の需給状況等について

【資料1－1】 第7回　北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議概要

【資料1－2】 製材・合単板・山棒チップの原木消費量の推移

【資料1－3】 製材・合単板・山棒チップの原木在荷量の推移

【資料1－4】 令和3年9月　製材工場動態速報

第7回 北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議

【開催日時】 令和3年8月23日（月）
【開催方法】 オンライン会議
【出席者】 11 団体・企業
【主な意見】

【需給状況】

（輸入材の状況）

- 輸入材は 10 月頃から年明けにかけて本格的な高値で入ってくると予想。
- 昨今のアメリカ情勢の記事を見ていると、木材の価格はコロナ前まで下がり、在庫も増えている状況。
- ウッドショックの影響は一時に比べて落ち着いており、完全に落ち着くのは年明け以降と予想。
- 北米での山火事により、特にベイマツの輸入は今後の動向が不透明。

（建築材等）

- 製材の生産状況は、各製材工場のキャパシティの問題が大きいが、フル稼働しているところもあれば、原木不安のため生産調整をしているところもある状況。
- 集成材工場では、カラマツラミナの通常の集荷量を確保できない状況。
- 通常取り扱う乾燥材だけではなく、製材したグリン材を調達して自社乾燥を検討したものの、本州向け梱包材や桟木の好調により、思うように材を調達できない。

（原木）

- 国有林では、請負生産の早期発注や、昨年度生産したが売れ残った材を春先に販売する等、少しでも生産を完了し市場に丸太を供給するように取り組んでいる。
- 国有林の入札状況については、原木不足を反映して、応札枚数が多い地域がある一方、複数の不落が発生している地域もあり、ばらつきがある状況。
- 道有林では、原木の安定供給に向け、販売時期を前倒しして立木販売を実施しているところ。関係者に対し、可能な限り早期伐採搬出についてお願いしている。
- 一般民有林の今年度の出材量は、上期は造林・保育の時期であり例年どおりであったが、下期以降は増加する見込み。
- 製材工場・合板工場からのオファーと出荷量のバランスは未だ取れていない状況。
- 今後は本格的な冬期伐採と各工場の冬に向けた在庫量がどうバランスしていくか気になるところ。
- 合板向けの移出材は前年に比べ増加、前々年比約 90%程度。特にトドマツの移出量は増えている。

【今後の対応方向】

① 原木の安定供給

- 今後の立木販売への要望として、関係者からは搬出期間の延長や安定的供給等の意見が出されている。
- スマート林業の普及も含めて、森林施業全体で人材不足の対策を検討する必要。
- 道産材の安定供給体制は重要だが、将来的にウッドショックの収束と安い輸入材の流入が予想される中、どのように頓挫せずやっていけるかが重要。川上と川下の連携が重要と認識。
- ウッドショックと騒がれている割には、国有林での不落等、立木や素材の購買意欲が少ない印象。北海道が遅れているのか、余裕がないのか理由は不明。

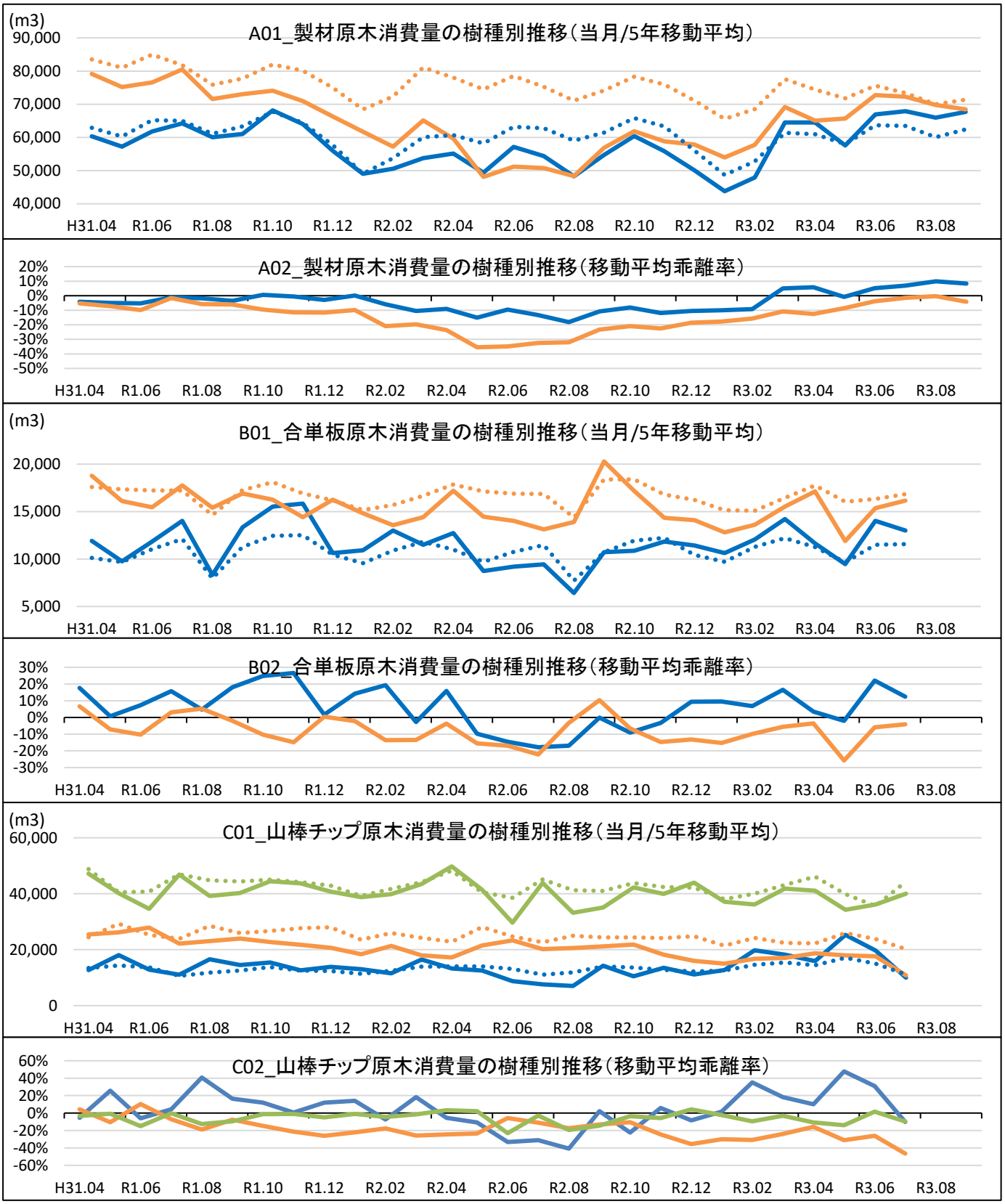
② 道産木材の供給力強化

- 将来を見据えて少しでも付加価値の向上が重要との意識は共有。
- 地産地消は本来のあるべき姿。そのような体制づくりができればベストだと期待。
- 一般的な設備投資をしたところで、本州の大手工場とはあまりにも規模が異なるため、どの程度対抗できるのか疑問。
- 簡単に設備投資に手を出せない状況ではあるが、時間をかけてしまうと道外へ原木の流れができてしまい、後から取り戻すのは困難。
- 常に安い材を求める業者もある一方、一定の価格で安定した材の確保を求める業者もあり、道産材の安定的な需要先として期待できる。
- プレカット工場、工務店に安定して購入してもらう必要。行政の協力も得ながらコンセンサスを得て横の連携を構築していければよい。

【まとめ】

- 新しい安定供給体制の確立には、原木の安定供給と安定した需要先が不可欠。
- 業界全体でタッグを組んで取り組んで行かなければいけない状況。
- 取組を慎重に進める必要があるが、同時にスピード感も必要。引き続き検討を続けていきたい。

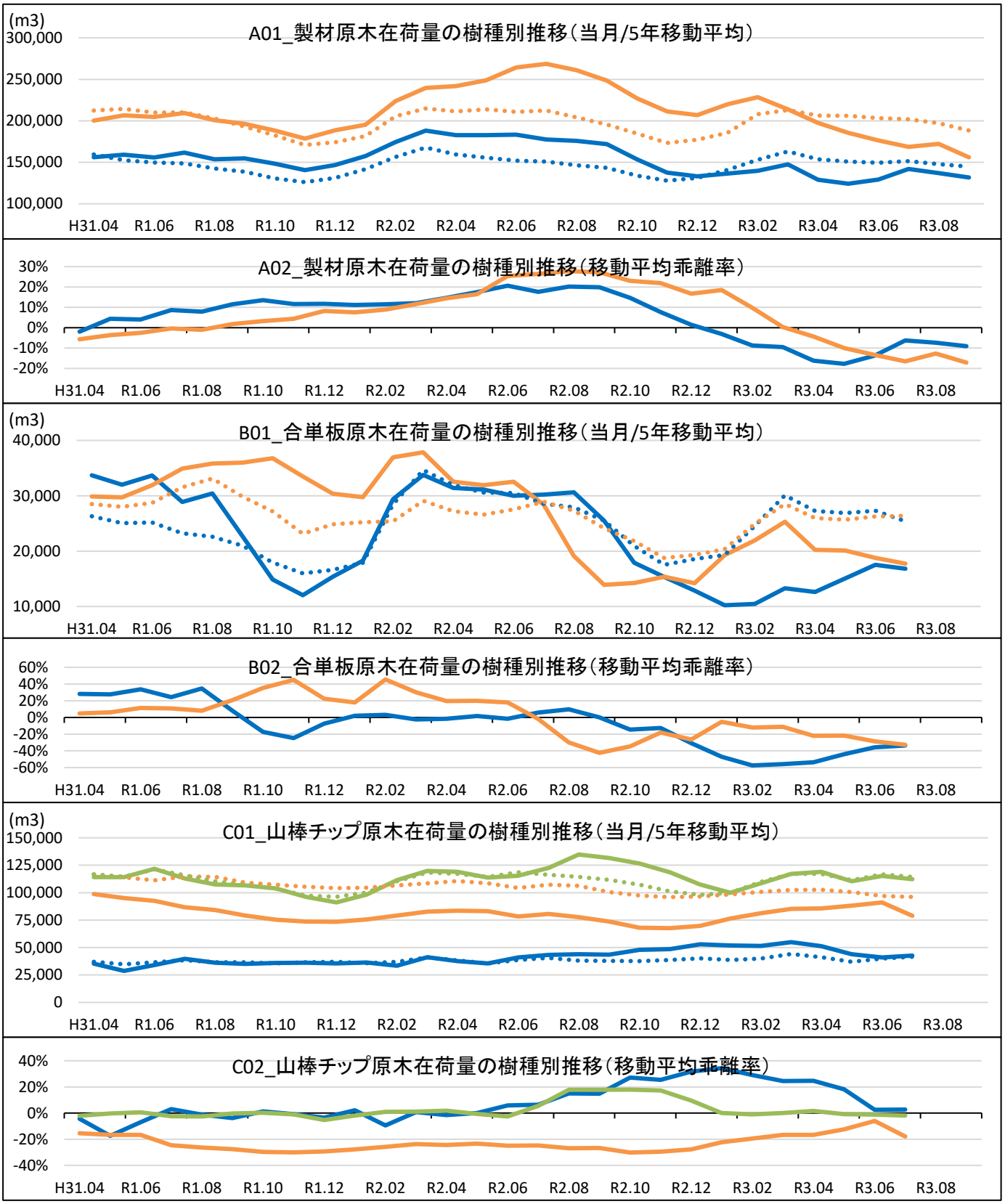
製材・合単板・山棒チップの原木消費量の推移



【凡例】

エゾトド（当月）	カラマツ（当月）	広葉樹（当月）
エゾトド（5年移動平均）	カラマツ（5年移動平均）	広葉樹（5年移動平均）

製材・合単板・山棒チップの原木在荷量の推移



【凡例】

エゾトド（当月）	カラマツ（当月）	広葉樹（当月）
エゾトド（5年移動平均）	カラマツ（5年移動平均）	広葉樹（5年移動平均）

令和3年9月　製材工場動態速報

【エゾマツ・トドマツ】

（単位：㎥）

	原木消費量	原木在荷量	製材生産量	製材出荷量	うち移出	製材在荷量
渡島	(176.6%) 5,753	(68.5%) 6,838	(166.4%) 2,465	(186.8%) 3,348	(145.6%) 840	(59.2%) 4,087
檜山	(118.2%) 1,679	(160.7%) 4,423	(125.7%) 773	(127.2%) 808	(129.0%) 542	(19.3%) 27
胆振	(97.0%) 8,581	(76.6%) 17,127	(105.0%) 4,273	(102.7%) 4,093	(127.6%) 2,047	(79.2%) 2,205
日高	(147.5%) 2,294	(72.3%) 5,390	(144.7%) 1,032	(111.6%) 1,004	(99.9%) 692	(33.5%) 213
後志・石狩・空知	(136.7%) 2,147	(128.1%) 2,646	(132.2%) 1,044	(113.3%) 920	(145.3%) 369	(90.1%) 909
上川・留萌・宗谷	(120.8%) 14,804	(82.4%) 34,742	(125.1%) 6,953	(121.9%) 7,377	(106.5%) 2,654	(89.3%) 7,274
オホーツク	(116.7%) 17,130	(92.6%) 32,407	(122.0%) 8,127	(126.9%) 8,173	(129.3%) 3,351	(95.0%) 8,893
根室	(145.5%) 454	(85.7%) 2,084	(140.9%) 231	(140.2%) 279	0	(45.4%) 615
釧路	(113.5%) 5,560	(57.5%) 8,720	(107.7%) 2,400	(115.5%) 2,800	0	(63.3%) 3,160
十勝	(155.8%) 9,275	(53.0%) 17,287	(149.3%) 4,004	(184.7%) 4,340	(219.0%) 2,365	(78.2%) 4,417
合計	(123.6%) 67,677	(76.6%) 131,664	(125.4%) 31,302	(129.5%) 33,142	(132.4%) 12,860	(77.6%) 31,800

※　括弧内は前年同月比

【カラマツ】

（単位：㎥）

	原木消費量	原木在荷量	製材生産量	製材出荷量	うち移出	製材在荷量
渡島・檜山	(92.1%) 256	(62.2%) 3,021	(88.7%) 125	(83.5%) 132	(135.2%) 96	(49.1%) 27
胆振・日高	(142.3%) 5,351	(76.5%) 22,847	(139.4%) 2,289	(141.6%) 2,347	(154.7%) 1,894	(251.9%) 990
後志・石狩・空知	(102.9%) 1,827	(117.6%) 4,363	(78.6%) 690	(80.5%) 690	(103.1%) 301	(123.1%) 261
上川・留萌・宗谷	(104.6%) 10,418	(51.0%) 14,466	(109.9%) 5,147	(103.8%) 5,013	(98.1%) 4,002	(139.0%) 652
オホーツク	(121.1%) 17,691	(55.1%) 45,228	(128.5%) 8,612	(128.2%) 8,237	(128.8%) 7,194	(107.3%) 2,953
根室・釧路	(128.3%) 5,064	(92.5%) 30,215	(125.5%) 2,292	(118.5%) 2,295	(140.8%) 1,709	(77.9%) 671
十勝	(123.3%) 27,825	(53.6%) 35,932	(126.9%) 12,872	(128.7%) 13,269	(131.7%) 11,658	(64.8%) 2,453
合計	(120.3%) 68,432	(62.8%) 156,072	(123.1%) 32,027	(122.2%) 31,983	(126.0%) 26,854	(93.9%) 8,007

※　括弧内は前年同月比

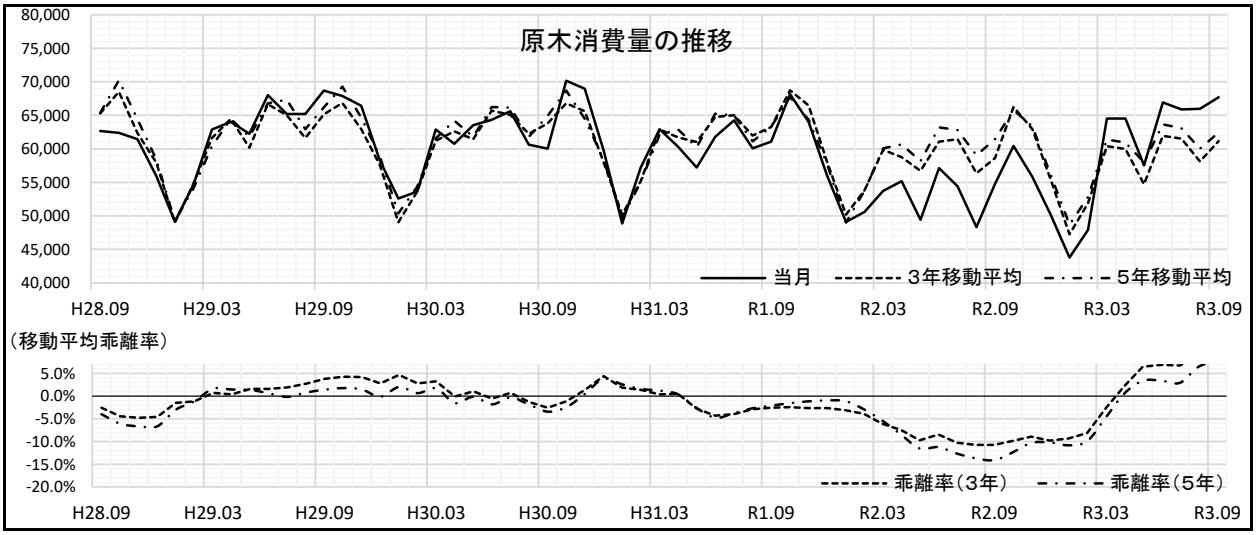
【広葉樹】

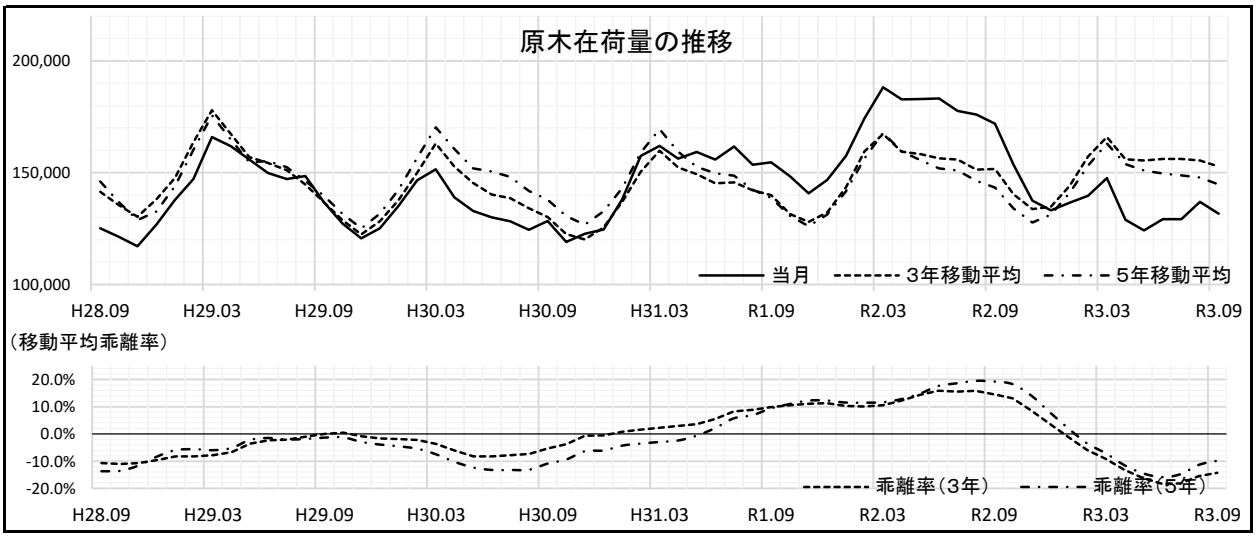
（単位：㎥）

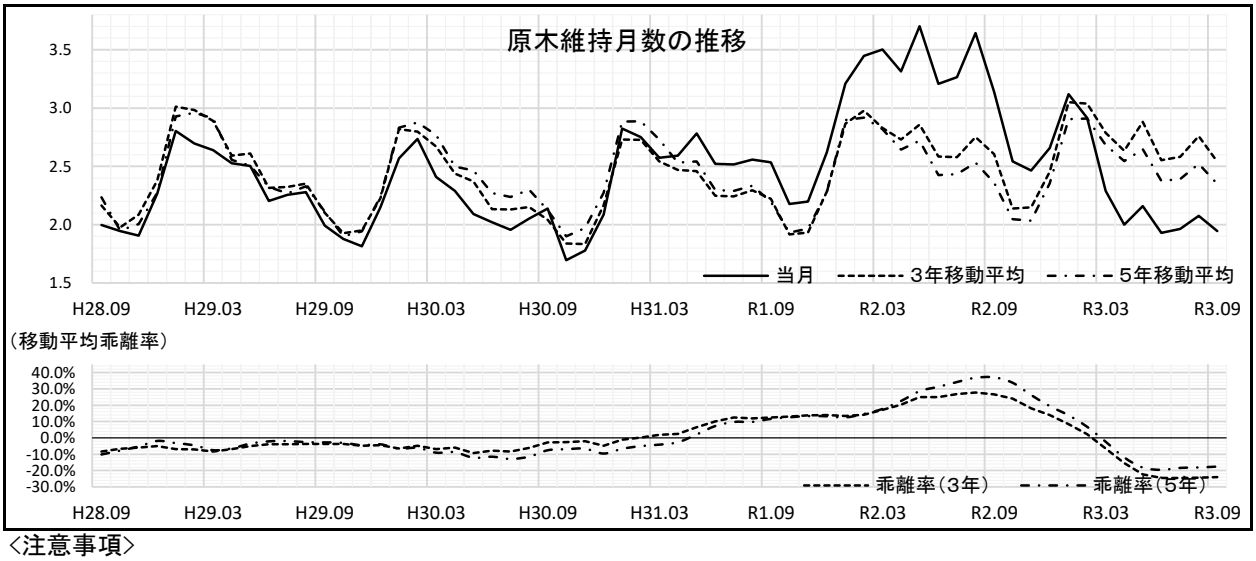
	原木消費量	原木在荷量	製材生産量	製材出荷量	うち移出	製材在荷量
渡島・檜山	(207.0%) 621	(190.1%) 2,181	(169.3%) 254	(184.7%) 277	33	(5695.7%) 1,310
後志・胆振・日高・石狩・空知	(241.3%) 345	(152.8%) 1,325	(253.2%) 157	(207.9%) 131	0	(887.7%) 648
上川・留萌・宗谷	(113.5%) 3,913	(87.4%) 12,712	(118.2%) 1,912	(100.3%) 1,966	(75.8%) 303	(86.1%) 8,464
オホーツク・根室・釧路・十勝	(58.3%) 543	(136.6%) 7,631	(51.1%) 253	(686.0%) 1,475	(80.6%) 100	(48.5%) 709
合計	(112.4%) 5,422	(107.7%) 23,849	(110.8%) 2,576	(161.2%) 3,849	(83.2%) 436	(97.8%) 11,131

※　括弧内は前年同月比

製材工場の動向（エゾマツ・トドマツ）【平成28年9月～令和3年9月】

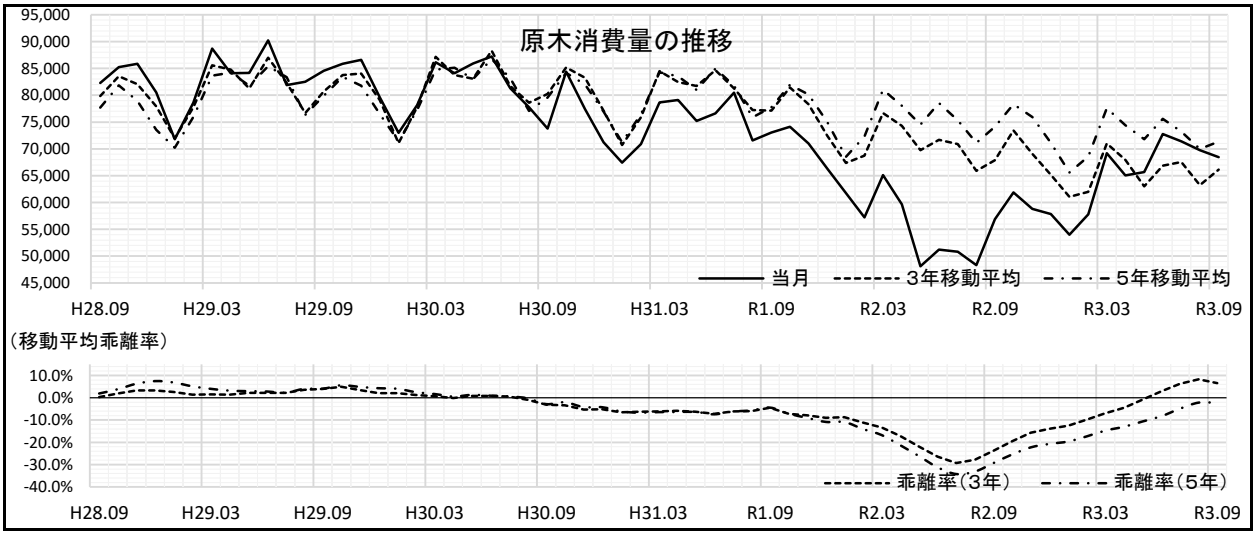


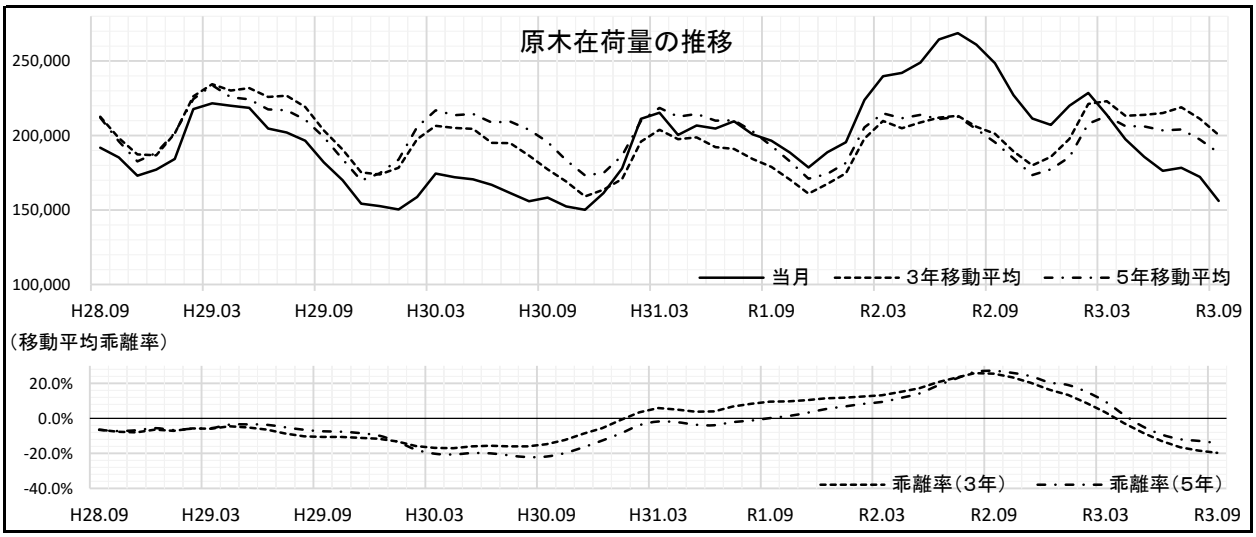


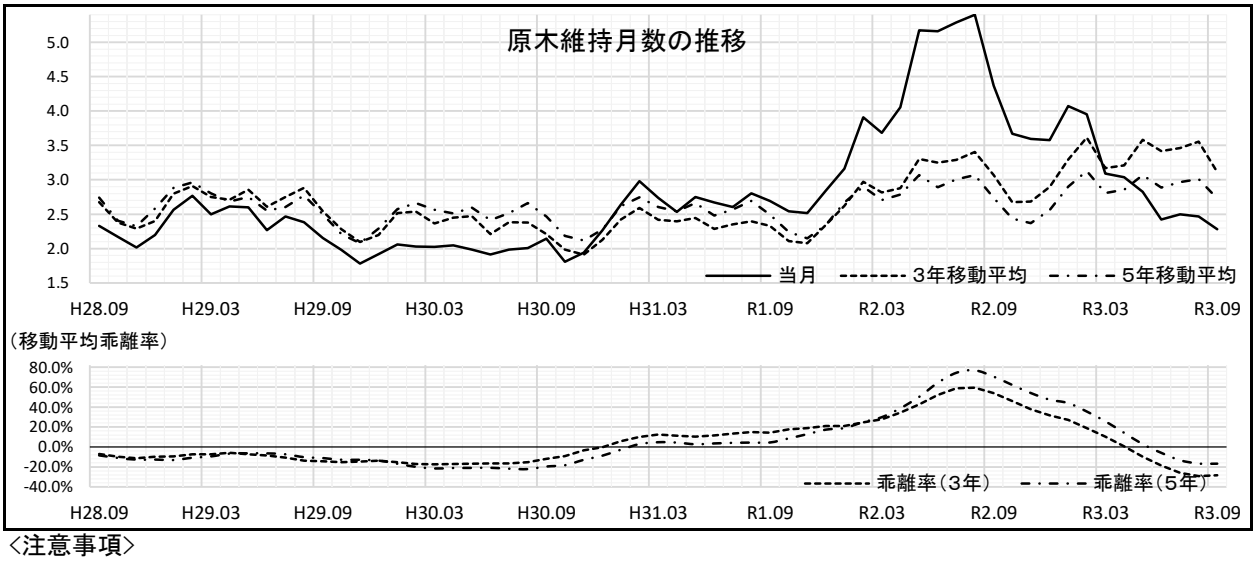


〈注意事項〉
・「3年移動平均」は当月値を含む過去3カ年の同じ月の平均値を表す。
・「5年移動平均」は当月値を含む過去5カ年の同じ月の平均値を表す。
・「乖離率（3年）」は3年移動平均に対する当月値の乖離率を表す（（「当月」÷「3年移動平均」－1）×100）。
・「乖離率（5年）」は5年移動平均に対する当月値の乖離率を表す（（「当月」÷「5年移動平均」－1）×100）。
・令和3年7月から令和3年9月までの値は速報値。

製材工場の動向（カラマツ）【平成28年9月～令和3年9月】







<注意事項>

・「3年移動平均」は当月値を含む過去3カ年の同じ月の平均値を表す。
・「5年移動平均」は当月値を含む過去5カ年の同じ月の平均値を表す。
・「乗離率（3年）」は3年移動平均に対する当月値の乗離率を表す（（「当月」÷「3年移動平均」－1）×100）。
・「乗離率（5年）」は5年移動平均に対する当月値の乗離率を表す（（「当月」÷「5年移動平均」－1）×100）。
・令和3年7月から令和3年9月までの値は速報値。

資料2

今後の対応方向について

【資料2】 新型コロナウイルス感染症の拡大・輸入材の価格高騰による林業・木材産業への対応について

新型コロナウイルス感染症の拡大・輸入材の価格高騰による林業・木材産業への対応について

資料２

これまでの影響と対応方向

【R2年度】

○ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、道産木材の需要が大きく減退

○ 道内製材工場の原木消費量は減少（原木在荷量は増加）

＜道の主な対策＞

- 住宅等の建築事業者に対して道産建築材の購入経費を支援
- 道有林の立木販売の入札延期

【R3年度】

○ 輸入材の価格高騰や供給不足が顕在化（ウッドショック）

○ 輸入材から国産材に転換する動きが活発化する中、道内の一部製材工場では原木不足

○ 輸入材の代替需要に対する供給の見通しが立たず、住宅着工の停滞が懸念

【対応方向】

1. 原木の安定供給

原木の不足感が続く中、原木の安定供給に迅速に対応

2. 道産建築材の安定供給体制の強化

品質の確かな道産建築材の供給体制整備

3. 道産木材の需要拡大

住宅や民間施設などでの一層の需要拡大に向けた取組の推進

これまでの取組

1. 原木の安定供給

（1）森林管理局や道森連と連携し、需給状況を踏まえた原木の安定供給に対応

＜道有林＞

- 立木販売の入札時期の前倒し

年間計画	4月～9月	上期執行率
263千m3	234千m3	89%

- 買受事業者に対し早期伐採の働きかけ

（2）連絡会議を活用した需給情報の共有

- 4月・8月の２回開催

2. 道産建築材の安定供給体制の強化

（1）供給マッチング

① プレカット工場

- 7月 アンケート調査実施
- 9月 個別聞き取り調査実施
- 10月 ﾌﾟﾚｶｯﾄ工場と木材産業との意見交換実施

（ﾌﾟﾚｶｯﾄ工場）

→乾燥等の品質が確かであれば利用したい　など

（製材工場）

→ 単社では難しいが、体制を整えれば供給可能

→ 求められる部材の種類と量の調整が必要　など

② 工務店

- 7月 アンケート調査実施

（2）生産体制の構築

- 業界団体が中心となり、乾燥機の共同利用など今後の生産体制のあり方を検討

3. 道産木材の需要拡大

- 住宅及び民間施設への支援実施
- 道庁本庁舎１階ロビー玄関等の内装木質化
- HOKKAIDO WOOD BUILDINGの登録制度運用開始

今後の対応

1. 原木の安定供給

（1）連絡会議の開催（11月下旬）

- 原木の在荷量や流通等の状況について共有
- 原木の道内外からの需要動向を踏まえた対応について検討

（2）関係機関等と連携した取組継続

- 引き続き、北海道森林管理局や道森連と連携した原木の安定供給に向けた取組実施

2. 道産建築材の安定供給体制の強化

（1）供給マッチング

- 11月 工務店への個別聞き取り実施
- 12月 工務店と木材産業との意見交換実施
- 調査結果や意見交換を踏まえ、道・道木連が中心となり、ﾌﾟﾚｶｯﾄ工場が求める部材や数量などの調査を実施し、製材工場等に提供することにより、プレカット工場・工務店とのマッチングを図る

（2）生産体制の構築

- 乾燥機の共同利用など、業界団体が検討を進める今後の生産体制のあり方を踏まえた具体策の推進

→ 品質の確かな道産建築材生産に向けた施設整備への支援など

3. 道産木材の需要拡大

（1）道内外に道産木材を広く普及・PR

- 12月：台湾展示会に出展
- 3月：東京展示会に出展
- その他HOKKAIDO WOODブランドを活用したプロモーション

（2）都市の木造・木質化の推進

- 道庁１F北側ロビーの内装木質化
- HOKKAIDO WOOD BUILDINGの推進　など